

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	伊万里市立山代西小学校
1 前年度 評価結果の概要	全体的な評価結果として、全項目でAまたはBの評価で一定の成果が見られた。学力の向上に関しては、自分の考えをもつことに課題が見られるので、児童の実態に合わせた内容の見直しや取り組みの工夫を行っていく必要がある。地域学習を通して、地域のよさを感じ取ることができた。情報モラルについては、学校での取り組みを家庭に知らせ、児童の理解が実践につながるように継続して指導していく必要がある。次年度は、自己目標申告書とリンクさせることで、学校教育目標の達成に向けて組織的、また個人としても継続して取り組めるようにし、教職員、保護者、地域が共に関わりを深めながら取り組んでいきたい。
2 学校教育目標	感謝の心を大切に、自ら学び・行動する人間性豊かな児童の育成
3 本年度の重点目標	<input type="radio"/> 「ありがとう」と言える心を育てる(豊かな心) <input type="radio"/> 健康的な生活の実践意欲を育てる(健やかな体) <input type="radio"/> 実態に合う指導で学ぶ意欲を育てる(学力の向上)

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価				主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○自分の思いや考えをもち、進んで表現できる児童の育成を目指して、楽しく学び、成長を実感できる授業の実践	○「授業が楽しい」と思える児童の割合を85%以上にする。 ○「自分の考えをもつことができた」と思える児童の割合を85%以上にする。	・校内研究を充実させ、日々の授業づくりに生かせるような校内体制をつくる。 ・基礎的・基本的な知識及び技能を育むため、音読や計算練習などに繰り返し取り組み、内容を確実に定着させる。 ・課題との出会いを大切に、課題解決のための見通しを丁寧に示すなど工夫した授業実践に取り組む。							・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校は様々な資料等を活用し、心の教育に積極的に取り組んでいると答える保護者を80%以上にする。	・「いのちの教育」指導資料を活用した道徳年間計画を作成し、道徳の授業の実践を行う。 ・学級通信等で積極的に道徳の授業の様子を発信して道徳教育への関心を高め、家庭と学校とが協力して心の教育に向かうことができるようにする。							・道徳教育推進担当者 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「月のこころ」アンケートで、「学校が楽しい」と答える児童が90%以上になるようにする。	・毎月末に「月のこころ」アンケートを実施し、児童の心の状態の把握に努める。 ・職員連絡会(週1回)で生徒指導について話す場を設定し、共通理解を図る。							・生活部 ・教育相談担当者
●健康・体づくり	●夢や目標の実現に向けて努力しようとする意欲を高める教育活動の推進	●「先生や友達からほめられることがあふ」と思う児童を80%以上にする。 ●自分の夢や目標の実現に向けて、努力していきたいと思う児童を90%以上にする。	・様々な教育活動を通して、お互いの良さや頑張りを認め合う機会をつくる。児童同士だけではなく、教員も児童の良さを積極的に褒める場を設ける。 ・努力することの大切さを感じ取らせるために、学習や体験活動、行事への取組等において学びの振り返りを行う。							・総務 ・教務主任 ・各教科主任
	●運動習慣の改善や定着化	○授業以外で外に出て遊ぶ日が1週間で3日以上の子を80%以上にする。	・保健だよりを活用する。 ・運動時間について口頭で尋ね、定期的以外で身体を動かすように呼びかける。 ・やまびこ広場にて、運動の大切さを伝え、身体を動かすことのよさを考える場を設ける。							・保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○食育の充実	○健康に良い食事をしている児童の割合を70%にする。	・給食時間ややまびこ広場において、望ましい食習慣や食に関する指導を行う。 ・保健だよりと給食だよりを活用し、家庭でも偏食をなくすよう協力を呼びかける。							・保健主事 ・食育推進担当者
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○毎週金曜日の定時退勤日を守る職員を100%にする。	・定時退勤日を週に1日設定し、確実に取り組むよう、呼びかけていく。 ・見直しをもって早くから取り組むなど、タイムマネジメントの意識化を図る。 ・学年毎で使用するデータの共有化を図る。							・総務
●特別支援教育の充実	○校内支援体制の整備 ○支援学級在籍児童及び担任教師への支援	○専門性が高まったと思える教職員80%以上にする。	・外部講師による研修会を年に1回開催する。 ・必要に応じてケース会議・担任との懇談、取り出し支援を行う。 ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成・実施・評価を呼びかける。							・特別支援教育コーディネーター ・各担任

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価				主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特色ある学校づくり	○地域の素材を生かした学習活動	○校区内の「人、自然、もの、行事」に愛着をもち、これからも大切にしていきたいと思う児童を90%以上にする。	・地域人材を活用することで地域の方々との交流や体験活動を積極的に行う。 ・地域の特色を生かし、社会科や生活科、総合的な学習の時間等と関連付けることで学習内容の充実を図る。							・総務 ・各教科主任
○危機管理	○情報モラルの指導	○情報モラルについて、インターネット上の危険やSNSの適切な使い方等を十分に理解できている児童を80%以上にする。	・アンケートを実施し、児童のインターネット機器や環境についての実態を把握する。その結果を基に指導内容の精選を行い、学期に1回以上の指導を実施する。							・情報教育担当者

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--